

## 情報公開文書

研究の名称	胆管空腸吻合術後の良性吻合部狭窄に対する内視鏡治療の検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院第三内科教授・安田一郎
研究の概要	<p><b>【研究対象者】</b> 2018年4月1日から2025年3月31日の間に胆管空腸吻合術後の良性狭窄に対する内視鏡治療を施行した症例</p> <p><b>【研究の目的・意義】</b> 主に胆膵腫瘍や胆管結石などに対して行われた胆管空腸吻合術後には1.38%程度、良性吻合部狭窄を来すことが報告されています(1)。以前は内視鏡的アプローチが困難でしたので、経皮的治療や再手術が行われることが多かったですが、バルーン内視鏡での術後再建腸管への内視鏡治療が開発され、2001年に最初に報告(2)されました。その後のメタアナリシスとして術後再建腸管(胆管空腸吻合の他に胃切除後の再建術式を含む)への内視鏡治療症例の解析では2001年から1523例の症例が分析され、成功率は93%(95%CI:88-97%)と良好でした(3)。これを受けて、低侵襲性から今後さらに普及することが予想されます。</p> <p>一方で、これまで、胆管空腸吻合部術後の良性吻合部狭窄に限った、ダブルバルーン内視鏡治療を検討した報告は少数のみです。当院で行ってきた狭窄拡張の方法、留置したステントの種類を詳細に分析することでより侵襲が低く、有効性の高い方法を検討することが必要と考えます。</p> <p>過去に行ってきた治療法を再検討し、より負担の少ない方法、ステントの種類や留置期間を検討することで患者さんの負担が少なく、有効性が高い治療法の開発につながると考えられます。</p> <p>1. 近藤哲矢ら、胆管空腸吻合部良性閉塞の1例、日消外会誌 37(12):1851-1856,2004年 2. H Yamamoto et al. Total enteroscopy with a nonsurgical steerable double-balloon method Gastrointest Endosc.2001 Feb;53(2):216-20 3. Sama Anvari et al. Double-balloon enteroscopy for diagnostic and therapeutic ERCP in patients with surgically altered gastrointestinal anatomy: a systematic review and meta-analysis Surg Endosc . 2021 Jan;35(1):18-36.</p> <p><b>【研究の方法】</b> 後ろ向き観察研究</p> <p><b>【研究期間】</b> 承認日 ~ 2025年3月31日</p>

	<p><b>【研究結果の公表の方法】</b>  結果の如何に関わらず、研究成果は公表し、主な公表論文は英文誌に投稿します。この際に個人のプライバシー保護には十分な注意を払って、個人の特定につながる情報は公表しません。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 （他機関への提供の有無）	手技成功率及び、年齢、性別、先行術式とその原疾患、再建方法、使用内視鏡、使用デバイス、胆管空腸吻合部への到達率、到達時間、胆管挿管率、治療内容、手技時間、臨床的改善率、手技関連偶発症、治療後の吻合部狭窄の再発率、狭窄様式、術後狭窄発症までの日数など（他機関への提供：無し）
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	研究責任者：富山大学附属病院 第三内科 教授 安田一朗
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	研究責任者：富山大学附属病院 第三内科 教授 安田一朗
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7301 FAX 076-434-5027 E-mail yumaioe@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学附属病院 第三内科 医員 井上祐真